

ESOTERIC

SA-60

取扱説明書

エソテリック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。




エソテリック製品は、最良の音質で末永くお使いいただくために、一台一台を厳しい品質管理のもとに製造しております。最良のコンディションでお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

 警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。	
 電源プラグをコンセントから抜け	万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは。 機器の内部に異物や水などが入ったときは。 この機器を落としたり、キャビネットを破損したときは。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店または弊社サービス部門に修理をご依頼ください。
	電源コードを傷つけない。 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしない。 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。 コードが破損すると火災・感電の原因となります。万一、電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店または弊社サービス部門に交換をご依頼ください。
 禁止	電源プラグにほこりをためない。 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いてから、ゴミやほこりを取り除いてください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない。 この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない。 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

	警告	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。
	分解禁止	この機器のカバーは絶対に外さない。 カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または弊社サービス部門にご依頼ください。
	強制	この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおく。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置く。 ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける。 内部に熱がこもり、火災の原因となります。

	注意	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
	強制	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。 また、接続は指定のコードを使用する。
		電源を入れる前には音量を最小にする。 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
		この機器は約14kgあり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する。
		この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにする。 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

安全にお使いいただくために



注意

以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。
湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない。
調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない。
火災・感電やけがの原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない。
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

ディスクの挿入口に手を入れない。
特にお子様にはご注意ください。けがや故障の原因となることがあります。



電源プラグを
コンセントから
抜け

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。



愛情点検

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
5年に1度は、販売店または弊社サービス部門に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

目次

安全にお使いいただくために	2	設定について	29
お使いになる前に	6	アナログ出力 (Analog Out)	31
ディスクについて	7	デジタル出力 (DigitalOut)	31
i.LINK (IEEE1394)	9	CDダイレクト (CD Direct)	31
アンプとの接続	10	ダイナミックレンジコントロール	31
その他の接続	12	グループ再生 (Group Play)	32
各部の名称 (本体)	14	2chダウンミックス (2chDownMix)	32
各部の名称 (ディスプレイ)	15	スピーカーのサイズ設定 (SP Size)	33
各部の名称 (リモコン)	16	スピーカーの距離設定 (Distance)	33
リモコンについて	17	スピーカーのレベル調節 (SP Level)	34
		テストトーンの長さ (Test tone)	34
再生	18	DVDのデジタル出力 (DigitalOut)	34
選曲 (数字キー、早送り/早戻し、スキップ)	20	出荷時の状態に戻すには	35
再生エリアの切り換え	21	困ったときは	36
グループの切り換え	22	仕様	38
リピート再生	22	保証とアフターサービス	39
音声の切り換え	23		
FLディマー	23		
ディスプレイ	24		
アップコンバート	25		
ワードシンク	26		
設定モード	26		
i.LINK(AUDIO)端子の設定	28		

お使いになる前に

使用上の注意

- 本機の上には物を置かないでください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。
- 再生中はディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
- ガラスドア付きラックに設置した場合、ガラスドアを閉めたままリモコンのOPEN/CLOSEボタン(▲)を押してディスクトレイを開けないでください。強い力でディスクトレイの動きが妨げられると、故障の原因になります。
- 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。
- 安定した場所に設置してください。
- テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。
- 床を傷付けたくない場合は、脚の裏に付属のフェルトを貼ってお使いください。

外部接続した機器で録音する時の注意

- DVDビデオの音声をデジタル音声出力端子に接続した機器で録音するときは、「DVDのデジタル出力」のドルビーデジタル/DTS/MPEGを「PCM」にしてください。(34ページ)
- ディスクによってはコピー禁止信号の入っているものがあります。コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することはできません。(音声をアナログで録音することは可能です)

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源コード×1
リモコン(RC-1089)×1
リモコン用乾電池(単3)×2本
フェルト×3枚
取扱説明書×1
ご愛用者カード×1

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いたあと、固く絞った布で水拭きしてください。

ゴムやビニール製品を長時間触れさせると、キャビネットを傷めることがありますので避けてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠️ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



本機は*ドルビーデジタルデコーダーおよび**DTSデコーダーを搭載しています。

*: ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** : DTSおよびDTS 96/24は米国Digital Theater Systems, Inc.の商標です。

Super Audio CDとDSDは登録商標です。

DVDロゴはDVD Format/Logo Licensing Corporationの商標です。

「i.LINK」は、IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様を示す呼称です。は、i.LINKに準拠した製品につけられるロゴです。「i.LINK」とはソニー株式会社の商標です。

ディスクについて

本機で再生できるディスクの種類とマーク

下の表に表示されているマークはディスクレーベル、またはジャケットに付いています。本機はこの表のディスクをアダプターなしで再生することができます。

この表のディスク以外は再生できません。

スーパーオーディオCD	
DVDオーディオ	
音楽用CD	
DVDビデオ (音声のみ)	

上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。

- 本機は、リージョンNo.(再生可能地域番号)が2または2を含むDVDビデオの音声を再生できますが、映像出力がないためメニュー画面を表示することはできません。ディスクの構成によっては、再生が困難なことがあります。
- DVD-ROM、CD-ROMなどは再生できません。
- 故障などを防ぐため、8cmアダプター(CD用)は使わないでください。
- コピーコントロールCDなど、CDの標準規格に準拠していない特殊なディスクやDualDiscは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

CD-R/CD-RWについて

本機は音楽CDフォーマットで記録されたCD-R/CD-RWを再生することができます。

- CDレコーダーで作成したディスクは、忘れずにファイナライズしてください。

ディスクの品質、記録の状態によっては再生できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。

DVD-R/DVD-RWについて

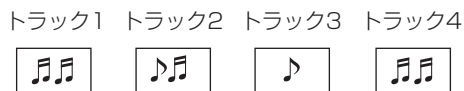
本機はDVDビデオフォーマットで記録されたDVD-RおよびDVD-RW、またはVR(ビデオレコーディング)フォーマットで記録されたDVD-RWの音声を再生することができます。

- 本機はCPRM(1回だけ録画可能な映像素材に対する著作権保護技術)に対応しておりませんので、「1回だけ録画可能な映像素材」を録画した部分を再生することはできません。
- DVDレコーダーで録画/編集したディスクは、正常に再生できないことがあります。
- VRフォーマットのディスクについては一部対応できない機能があります。

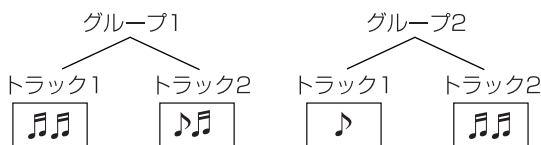
ディスクについて (続き)

ディスクの構成について

CD・スーパーオーディオCD

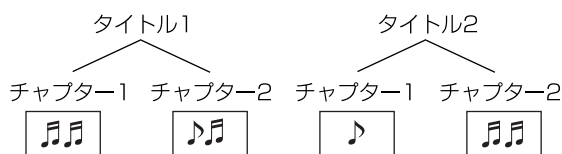


DVDオーディオ



DVDオーディオではディスクをグループという単位で分け、さらにグループをトラックという単位で分けています。(一般的には1曲が1つのトラックに対応しています)

DVDビデオ

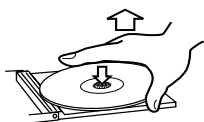


DVDビデオではディスクをタイトルという単位で分け、さらにタイトルをチャプターという単位で分けています。また、メニュー画面はどのタイトルにも属しません。映画などではふつう1つの映画が1つのタイトルに対応しています。

ディスクの取り扱い

- ディスクはレーベル面を上にしてセットしてください。
- ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。

取り出し方



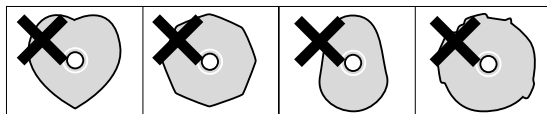
ディスクの正しい持ち方



- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクの汚れは画質・音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。



- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所には放置しないでください。
- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。
- 再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



- レーベル面に印刷するタイプのディスク(プリンタブルディスク)は使用しないでください。表面が特殊加工されているため、本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

i.LINK (IEEE1394)

i.LINKとは、国際標準規格であるIEEE1394の別称です。本機はi.LINK(AUDIO)に対応しています。

本機のi.LINK(AUDIO)端子にi.LINK(AUDIO)対応機器をi.LINKケーブルで接続すると、2chリニアPCM信号やマルチチャンネルの圧縮オーディオ信号に加え、従来アナログでしか伝送できなかったスーパーオーディオCDのマルチチャンネル信号をデジタルのまま伝送することができます。複数のi.LINK対応機器を接続する場合、他の機器を経由して接続してもデータのやりとりが可能ですので、接続順序を意識する必要がありません。

著作権保護システムDTCP

i.LINKを使ってスーパーオーディオCDやDVDオーディオの音声を再生するためには、再生機器とD/Aコンバーターの双方が著作権保護システム DTCP (Digital Transmission Content Protection)に対応していなければなりません。

本機はDTCPに対応しています。

データ転送速度

i.LINK対応機器のデータ転送速度には、100Mbps(S100)、200Mbps(S200)、400Mbps(S400)の3種類があります。本機の最大データ転送速度は400Mbpsです。接続には、市販のS400対応の6ピンi.LINKケーブルをお使いください。

複数の機器を接続するとき、データ転送速度の遅い機器を間に挟むと、データ転送速度が遅くなります。できるだけデータ転送速度が同じ機器を上流に並べて接続してください。

注意

- i.LINKの伝送フォーマットには、本機の「i.LINK(AUDIO)」(A&Mプロトコル)の他に、BSデジタルなどの「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーやデジタルビデオの「DV」などがあります。本機にi.LINK(AUDIO)非対応の機器(パソコンの周辺機器など)を接続すると、誤動作や故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- データ転送中は、つながっている機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、電源をオン/オフしないでください。
- i.LINK対応機器によっては、電源がオンになっていないとデータを中継できないものがあります。

- i.LINKに対応していても、機器によっては動作しないことがあります。
- 受信側の機器が本機の出力モードに対応していないことがあります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

複数のi.LINK機器を接続するには

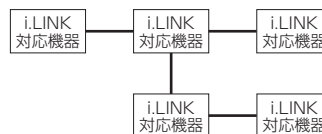
デジチェーン接続(数珠つなぎ)

数珠つなぎに一系列に接続する場合は、本機を含めて17台まで接続できます。



ツリー接続

i.LINK端子を3個以上備えている機器がある場合、途中で分岐して接続することもできます。本機を含めて17台まで接続できます。



信号を出力した機器に、同じ信号が戻ってしまうと動作しません。接続が輪(ループ)にならないように注意してください。



この機器のi.LINKインターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。

- 1) IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
- 2) Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0

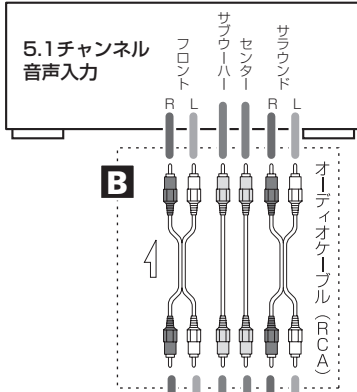
この規格のAM824 sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVD-Audio、スーパーオーディオCDに対応しています。

アンプとの接続

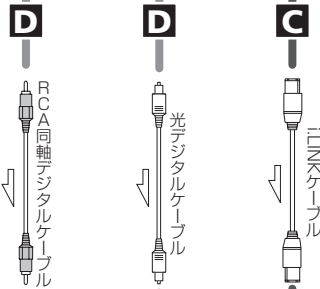
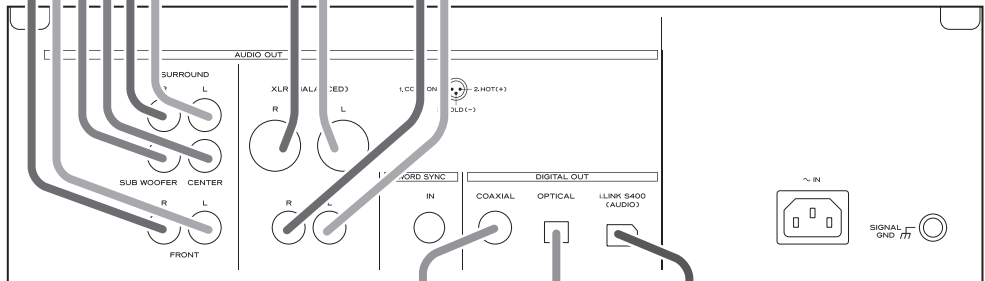
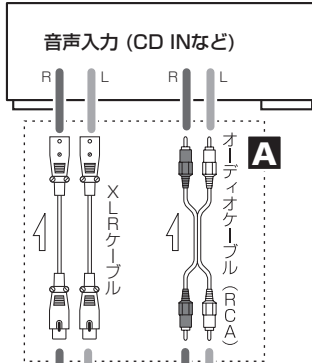
⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

AVサラウンドアンプ



ステレオアンプ



デコーダー内蔵アンプ
またはデジタル録音機器
(CDレコーダー、MDデッキなど)

アンプ

A 2chアナログ音声出力端子

2チャンネル(ステレオ)のアナログ音声を出します。アンプにXLRの音声入力端子がある場合は、市販のバランス型XLRケーブルを使って、本機のR端子とアンプのR端子、本機のL端子とアンプのL端子をそれぞれ接続してください。

アンプにXLRの音声入力端子がない場合は、市販のRCAオーディオケーブルを使って、本機のR端子とアンプのR端子、本機のL端子とアンプのL端子をそれぞれ接続してください。

- 「アナログ出力」の設定を「Multi ch」にした場合、2chアナログ音声出力端子からは5.1チャンネルのうちのフロントL/Rの音声だけを出力します。2chアナログ音声出力端子を使う場合、通常は「アナログ出力」を「2ch」に設定してください。(31ページ)

B 5.1chアナログ音声出力端子

5.1チャンネルのアナログ音声を出します。市販のRCAオーディオケーブルを使って、AVサラウンドアンプと接続してください。

- 5.1chアナログ音声出力端子を使うときは、「アナログ出力」を「Multi ch」に設定してください。(31ページ)
- 最適なサラウンド効果を得るためには、6本のスピーカー(フロント×2、センター×1、リア×2、サブウーハー×1)が必要です。

C i.LINK(AUDIO)端子

CDのデジタル音声だけでなく、スーパーオーディオCDとDVDオーディオのサラウンド音声もデジタル出力することができます。

市販のS400対応の6ピンのi.LINKケーブル(IEEE1394ケーブル)を使って、アンプ(AZ-1など)またはD/Aコンバーター(D-01など)のi.LINK(AUDIO)端子(IEEE1394端子)と接続してください。

i.LINK(AUDIO)端子を使う場合は、「デジタル出力」を「ON」にして、出力方法を設定してください。(28、31ページ)

D デジタル音声出力端子

デジタル音声を出します。本機のデジタル出力端子(COAXIALまたはOPTICAL)を、アンプやデジタル録音機器(CDレコーダーなど)のデジタル入力端子と接続します。

接続には市販のケーブルをお使いください。

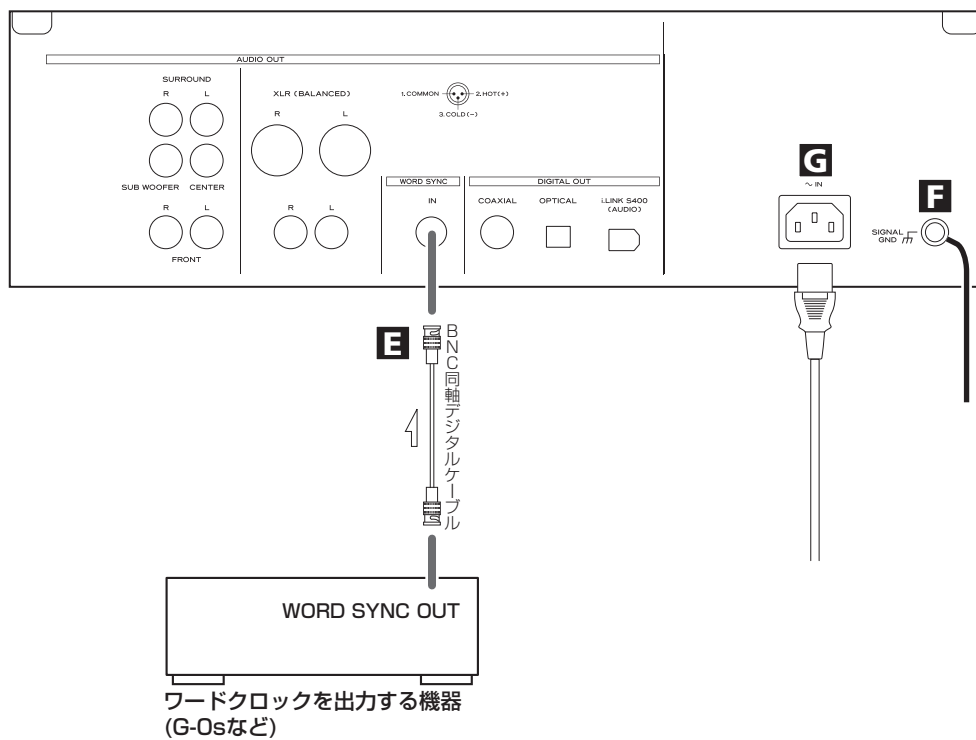
COAXIAL : RCA同軸デジタルケーブル
OPTICAL : 光デジタルケーブル(TOS)

- 本機の光デジタル端子はシャッター式です。接続するときは、端子の向きを合わせてしっかりと差し込んでください。誤った向きで無理に差し込むと、端子が変形してシャッターが閉まらなくなることがありますのでご注意ください。
- デジタル音声出力端子を使う場合は、「デジタル出力」を「ON」に設定してください。(31ページ)
- この端子からは、スーパーオーディオCDのデジタル音声およびDVDオーディオのサラウンドのデジタル音声は出力できません。DVDオーディオの192kHz/176.4kHz音声は、96kHz/88.2kHzまたは48kHz/44.1kHzに変換して出力されます。ただし、ディスクによっては、デジタル音声を出さないことがあります。

エソテリックでは、リファレンスとしてエソテリック MEXCEL ストレスフリー7Nケーブルを使用しています。エソテリック MEXCELケーブルシリーズは、以下のものが発売されています。

RCAオーディオケーブル	XLRデジタルケーブル
XLRオーディオケーブル	BNCデジタルケーブル
RCAデジタルケーブル	スピーカーケーブル

その他の接続



E ワードシンク端子

同期信号を入力します。
市販のBNC同軸ケーブルを使って、マスタークロックジェネレーターやD/AコンバーターのWORD SYNC OUT端子と接続してください。

F アース端子[GND]

市販のビニール電線でアンプとアース接続すると、音質が良くなることがあります。

- 安全アースではありません。

G 電源コード

電源コード接続ソケットに付属の電源コードを差し込んでください。全ての接続が終わったら、電源プラグをAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

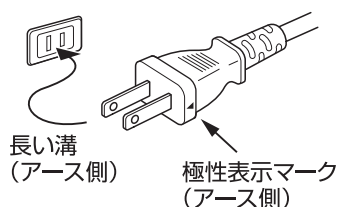
- 本機の電源コード接続ソケットは3ピン仕様になっていますが、アースピンはシャーシには接続されていません。

! エソテリック純正の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

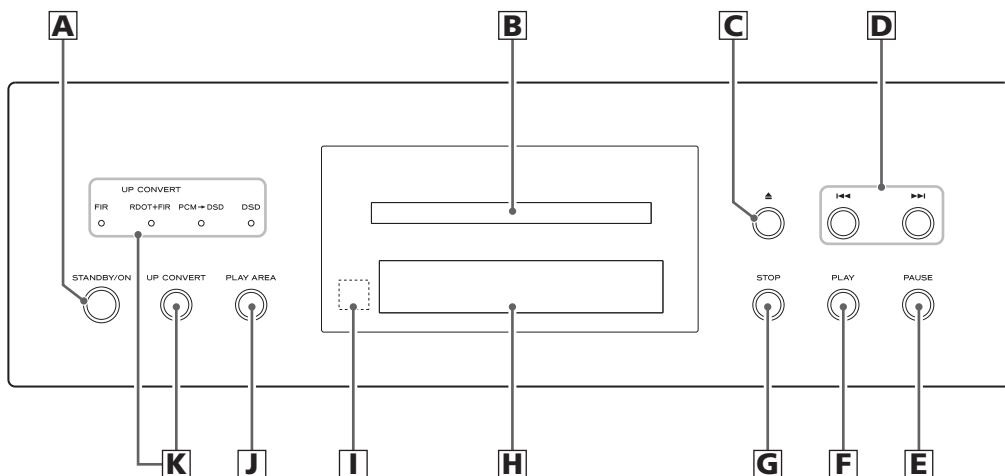
電源の極性管理について

本機はより良い音質を得るために、電源の極性管理をしています。電源コードのプラグ部分に、極性管理用の極性表示マーク(▲)が付いています。本機では、印の付いている方がアース側です。

一般的に、家庭用電源コンセントの差し込み口は、長い溝の方がアース側です。極性表示マークが付いている側の差し込み刃をコンセントの長い溝の方に差し込んでください。なお、極性管理されていない電源コンセントに接続するときは、電源プラグを逆に差し込んでみるなどの方法で音質の良い方を選択してください。



各部の名称 (本体)



A スタンバイ/オンボタン [STANDBY/ON]

電源のオンとスタンバイを切り換えます。
電源がオンのときはボタンの周囲が青く光り、スタンバイ状態のときは赤く光ります。

B ディスクトレイ

C オープン/クローズボタン [▲]

ディスクトレイを開閉します。

D スキップボタン [◀◀/▶▶]

前または後ろにスキップします。再生中に1秒以上押し続けると再生スピードが変わります。
(20ページ)

E 一時停止ボタン [⏸]

再生を一時停止します。(19ページ)

F 再生ボタン [▶]

ディスクを再生します。(18ページ)

G 停止ボタン [■]

再生を停止します。(19ページ)

H ティスプレー

I リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。(17ページ)

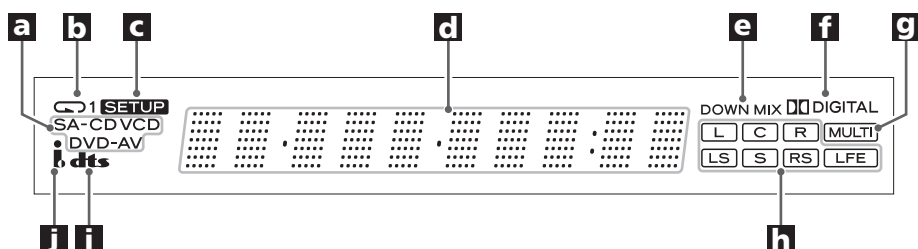
J 再生エリアボタン [PLAY AREA]

停止中に押すと、DVDオーディオとスーパーオーディオCDの再生エリアを切り換えます。(21ページ)
2秒以上押すと設定モードになり、本体のディスプレイに設定が表示されます。(26ページ)

K アップコンバートボタン [UP CONVERT]

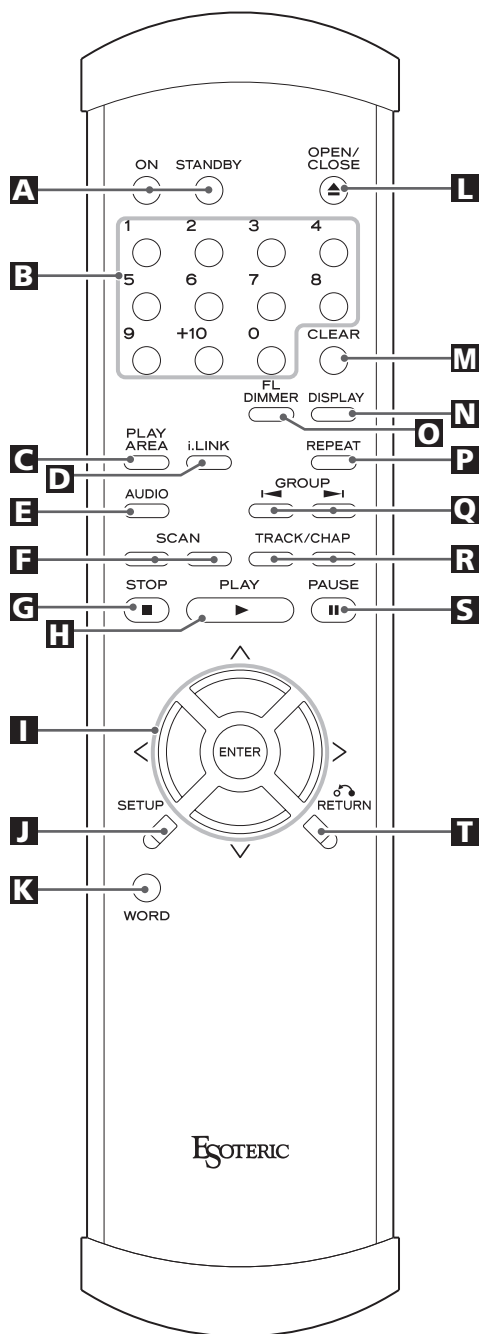
デジタルフィルターを切り換えて、サンプリング周波数をアップコンバートします。
選択したフィルターのインジケーターが点灯します。
(25ページ)

各部の名称 (ディスプレイ)



- a** ディスクインジケータ
セットされているディスクの種類を表示します。
- b** リピートインジケータ
リピート再生中に点灯します。
- c** セットアップインジケータ
SETUPボタンを押して設定モードにすると点灯します。
- d** メッセージ表示部
再生時間など各種メッセージが表示されます。
- e** ダウンミックスインジケータ
サラウンドのアナログ音声をダウンミックスして出力しているときに点灯します。
- f** ドルビーデジタルインジケータ
ドルビーデジタル音声の再生中に点灯します。
- g** マルチチャンネルインジケータ
アナログ音声出力の設定が「Multi ch」のときに点灯します。
- h** チャンネルインジケータ
再生中の音声チャンネルが点灯します。
- i** DTSインジケータ
DTS音声の再生中に点灯します。
- j** i.LINKインジケータ
i.LINK出力がオンのときに点灯します。

各部の名称 (リモコン)



A スタンバイボタン [STANDBY/ON]

本体背面の主電源スイッチがオンのときに、ONボタンを押すとオンに、STANDBYボタンを押すとスタンバイに切り換わります。スタンバイ状態のときは、スタンバイインジケーターが点灯します。

ONボタンを押すと、リモコンの白いボタンが数秒間点灯します。

B 数字キー

選曲に使用します。

C 再生エリアボタン [PLAY AREA]

停止中に押すと、DVDオーディオとスーパーオーディオCDの再生エリアを切り換えます。(21ページ)

D i.LINKボタン

i.LINK出力の設定を切り換えます。(28ページ)

E オーディオボタン [AUDIO]

DVDオーディオの再生中にこのボタンを押すと、音声切り換わります。(23ページ)

F スキャンボタン [SCAN]

早送り/早戻しに使用します。(20ページ)

G 停止ボタン(■)

再生を停止します。(19ページ)

H 再生ボタン(▶)

ディスクを再生します。(18ページ)

I 方向ボタン(上下左右)とENTERボタン

設定モードで使用します。方向ボタンで項目を選択して、ENTERボタンで確定します。(29ページ)

J セットアップボタン [SETUP]

このボタンを押すと設定モードになります。(29ページ)

リモコンについて

K ワードボタン [WORD]

ワードシンクのオン/オフを切り換えます。オンにすると、外部入力クロックをマスターとしてシンク動作します。(26ページ)

L オープン/クローズボタン(△)

ディスクトレイを開閉します。(19ページ)

M クリアボタン [CLEAR]

数字キーを押し間違えたときなどに使います。

N ディスプレーボタン [DISPLAY]

再生中または停止中にこのボタンを押すと、ディスプレイの表示が切り換わります。(24ページ)

O FLディマーボタン [FL DIMMER]

本体のディスプレイの明るさを4段階で調節できます。(23ページ)

P リピートボタン [REPEAT]

ディスクのリピート再生に使用します。(22ページ)

Q グループボタン [GROUP]

DVDオーディオの再生中にこのボタンを押すと、前または後ろのグループにスキップします。DVDビデオの場合は、前または後ろのタイトルにスキップします。(22ページ)

R スキップボタン(◀◀/▶▶)

前または後ろのトラックにスキップします。(20ページ)

S 一時停止ボタン(II)

再生を一時停止します。(19ページ)

T リターンボタン [RETURN]

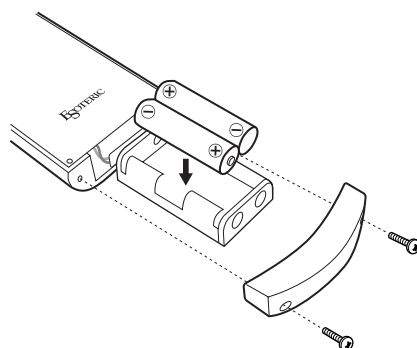
設定モードになっているときにこのボタンを押すと、上位の項目に戻ります。(29ページ)

リモコン使用上の注意

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、7メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

ドライバーを使ってリモコン下部のフタを外し、電池ケースを引き出してください。⊕と⊖の向きを確認して乾電池(単3形)2本を入れたら、電池ケースを戻し、フタを閉めてください。



電池の交換時期

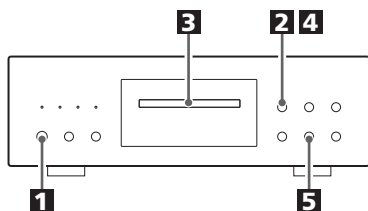
操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

⚠ 電池についての注意

電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

再生



1 本体の電源をオンにする。



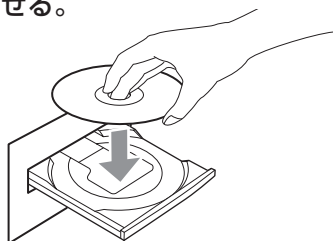
STANDBY/ONボタンを押すたびに、電源のオン/スタンバイが切り換わります。
電源がオンのときはボタンの周囲が青く光り、スタンバイ状態のときは赤く光ります。

2 OPEN/CLOSEボタン(▲)を押す。

ディスクトレイが手前に出ます。



3 ディスクのレーベル面を上にしてトレイの中央にのせる。



- 両面に記録されたディスクのときは、見たい面を下にしてください。
- ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレイを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレイが開かなくなることがありますので、ディスクは必ずトレイの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。

4 OPEN/CLOSEボタン(▲)を押す。



ディスクトレイが閉まります。指を挟まないようにご注意ください。

ディスクによっては、1曲目から自動的に再生が始まります。

- ディスクの読み込みには多少時間がかかります。

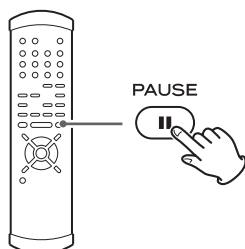
5 PLAYボタン(▶)を押す。

再生が始まります。



- 本機には映像出力がないため、DVDビデオのメニュー画面を表示することはできません。ディスクの構成によっては、再生が困難ことがあります。

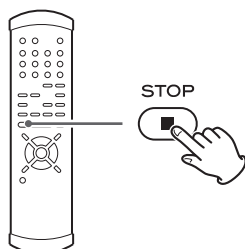
一時停止するには



再生中にPAUSEボタン(⏸)を押すと再生が一時停止します。

PLAYボタン(▶)またはPAUSEボタン(⏸)を押すと、再び再生が始まります。

再生をやめるには



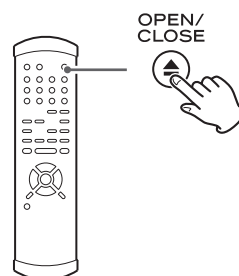
STOPボタン(■)を押すと再生が停止します。

- DVDビデオの再生中にSTOPボタン(■)を押すと、リジューム状態になります。リジューム中にPLAYボタン(▶)を押すと、続きから再生します。

以下のボタンを押すと、リジュームは解除されます。

停止中にSTOPボタンを押した場合
OPEN/CLOSEボタン(▲)

ディスクトレイを開閉するには

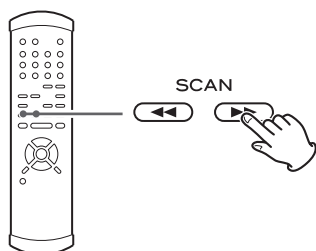


OPEN/CLOSEボタン(▲)を押すとトレイが開き、もう一度押すと閉まります。

- ディスクの再生中にOPEN/CLOSEボタンを押した場合は、トレイが開くのに数秒かかります。

選曲

早送り/早戻しするには(スキャン)



再生中にリモコンのスキャンボタン(◀◀/▶▶)を押すと早送り/早戻しができます。聴きたい部分が見つかったら、PLAYボタン(▶)を押してください。

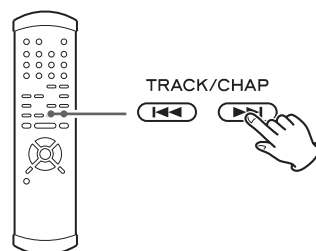
スキャンボタン(◀◀/▶▶)をくり返し押すと、早送り/早戻しの速度が3段階に変わります。

▶▶ : 早送り(1)→早送り(2)→早送り(3)
→PLAY (通常の再生)

◀◀ : 早戻し(1)→早戻し(2)→早戻し(3)
→PLAY (通常の再生)

- 本体の場合は、再生中にスキップボタン(◀◀/▶▶)を1秒以上押すと早送り/早戻しの速度が変わります。

スキップするには

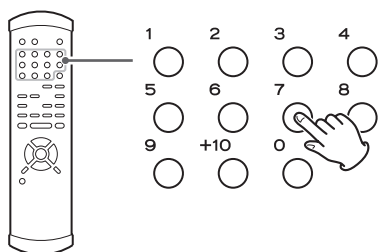


再生中に本体またはリモコンのMUSIC SKIPボタン(◀/▶)を押すと、前または後ろの曲にスキップして再生を始めます。

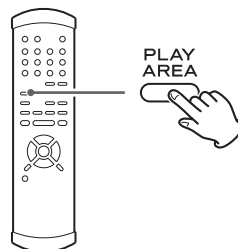
- ◀ボタンを1回押すと、再生中の曲の頭に戻ります。それより前に戻りたいときは、◀ボタンを続けて押してください。ただし、曲の最初の1秒以内で◀ボタンを押した場合は、前の曲にスキップします。
- 停止中または一時停止中に◀/▶ボタンを押すと、選んだ曲の頭で一時停止状態になります。

再生エリアの切り換え

数字キーで選んで再生するには



再生中または停止中に数字キーを押すと、その曲から再生を始めます。



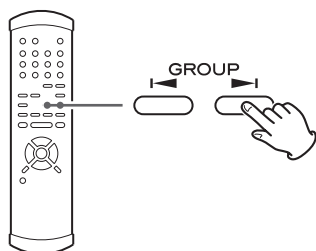
DVDオーディオディスクには、DVDビデオディスクとして読み込むことが可能なものがあります。

また、スーパーオーディオCDには、2チャンネルとマルチなど複数のエリアを持つものや、スーパーオーディオCDとCDの2層構造になっているものがあります。

停止中にPLAY AREAボタンを押すと、DVDオーディオ、またはスーパーオーディオCDの再生エリアを切り換えることができます。

- DVDオーディオディスクを、DVDオーディオディスクとして読み込んだ場合とDVDビデオディスクとして読み込んだ場合では、再生できる内容が変わることがあります。

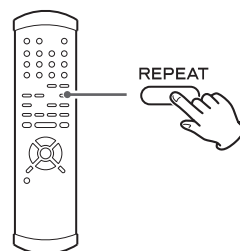
グループの切り換え



DVDオーディオの再生中にリモコンのGROUPボタン (◀/▶)を押すと、選んだグループに切り換わって再生を始めます。停止中または一時停止中に押すと、選んだグループの頭で一時停止状態になります。

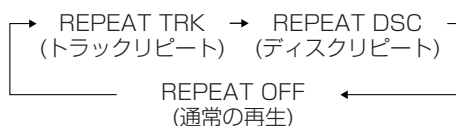
- DVDビデオの場合は、タイトルが切り換わります。
- ディスクによっては、停止中または一時停止中に押すと、選んだグループの再生を始めます。

リピート再生

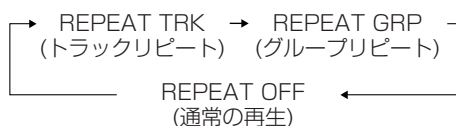


再生中にREPEATボタンを押すたびに、リピートモードが変わります。

CD/スーパーオーディオCD



DVDオーディオ



トラックリピート

再生中の曲をくり返し再生します。リピート再生中に他の曲を選ぶと、その曲をくり返し再生します。

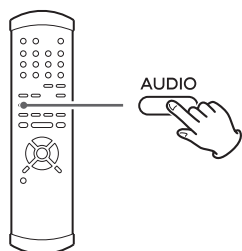
ディスクリピート/グループリピート

CDまたはスーパーオーディオCDの場合は、再生中のディスクの全曲をくり返し再生します。

DVDオーディオの場合は、再生中のグループをくり返し再生します。

- 再生を停止するとリピート再生は解除されます。

音声の切り換え



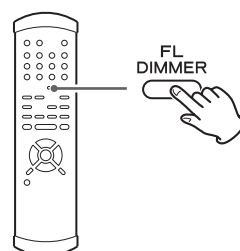
DVDオーディオディスクには、2チャンネルとサラウンドの音声などが同時に記録されているものがあります。

DVDビデオディスクには、ドルビーデジタルやPCMなどの音声がいりいろな言語で記録されているものがあります。

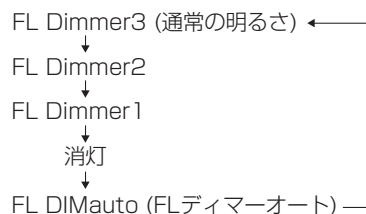
複数の音声記録されたディスクの再生中にAUDIOボタンを押すたびに、音声切り換わります。

- 音声1つしか記録されていないDVDは音声切り換えることはできません。
- 音声切り換えたときに、音声が一瞬途切れることがあります。
- スーパーオーディオCD、CDの音声切り換えることはできません。
- DVDオーディオディスクの音声がグループによって分けられている場合は、グループを切り換えてください。(22ページ)

FLディマー

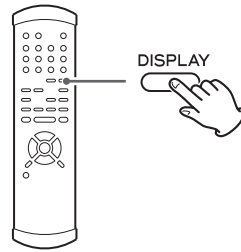


本体のディスプレイとボタン照明の明るさを調節できます。



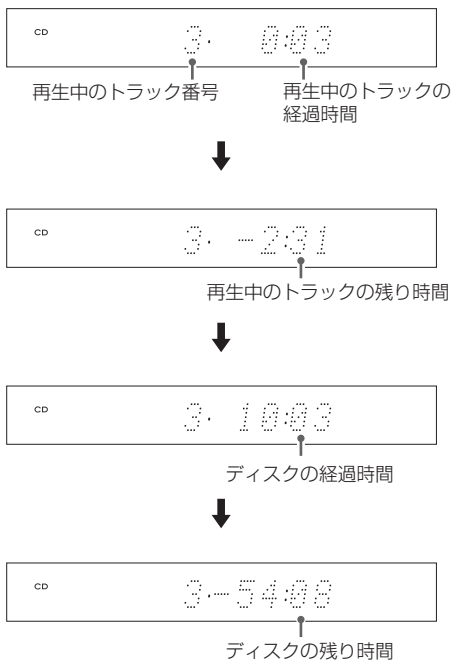
- 「消灯」を選ぶと、ディスプレイとインジケーターが消灯します。消灯した状態で電源をオフにすると消灯は解除され、次に電源を入れたときはDimmer1の明るさになります。
- 「FL DIMAuto」を選んだ場合、再生中はディスプレイとインジケーターが消灯します。停止中はDimmer1の明るさになります。
- 消灯中またはFL DIMAuto中に再生ボタンなどを押すと、約3秒間だけディスプレイが点灯します。

ディスプレイ



再生中または一時停止中にDISPLAYボタンを押すと、ディスプレイの表示が次のように切り換わります。

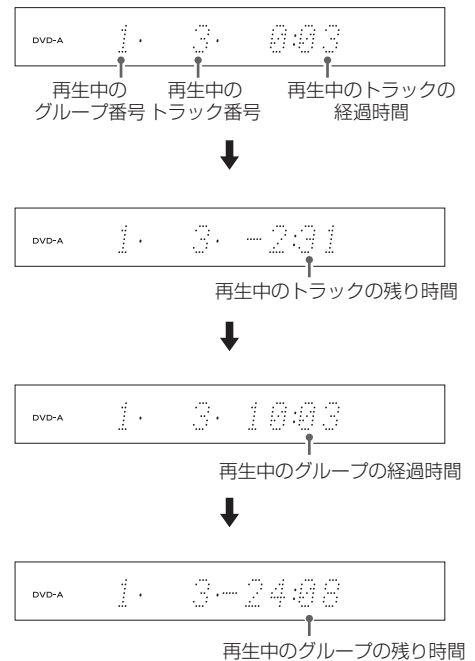
スーパーオーディオCD/CD



- スーパーオーディオCDまたはCDの停止中は、ディスクの総トラック数と総再生時間を表示します。

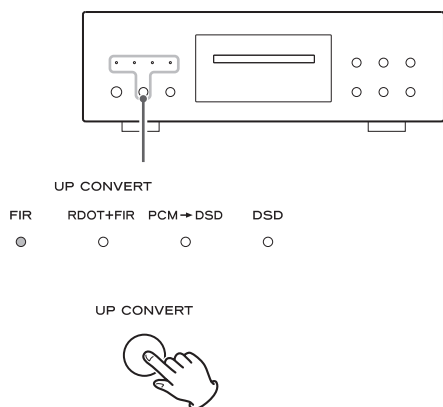


DVDオーディオ



- DVDオーディオの停止中は、「STOP」を表示します。

アップコンバート



UP CONVERTボタンを押すたびに、アップコンバートのアルゴリズムが切り換わり、選択したフィルターのインジケーターが点灯します。

FIR

FIR型デジタルフィルターによるアップコンバート動作を行います。

PLAY AREAボタンを使って「Wide」と「Narrow」を切り換えることができます。(26ページ)

RDOT+FIR

RDOTとFIRを組み合わせた動作です。RDOTはスローロールオフの特性を持ち、のびのある自然な音色が特徴です。デジタルの領域で2つのアップコンバータが直結されることで、それぞれの特徴がより引き出されます。

PCM→DSD

PCM信号をスーパーオーディオCDで使われているDSD信号(1bit 64fs)に変換して出力することができます。

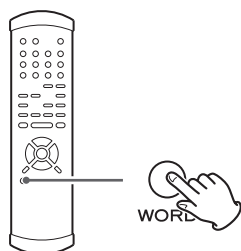
- アップコンバートとDSD変換は以下の端子にのみ有効です。

2chアナログ音声出力端子(XLR)
2chアナログ音声出力端子(RCA)
5.1chアナログ音声出力端子のフロントL/R

他の端子からは、アップコンバートまたはDSD変換した信号を出力することはできません。

- スーパーオーディオCDは、DSD信号(1bit 64fs)をそのまま出力しますので、アップコンバートしません。
- DSDインジケーターは、スーパーオーディオCDの再生中に点灯します。

ワードシンク

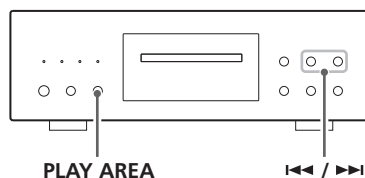


エンテリックG-0sなど外部同期信号(ワードクロック)を出力する機器と接続し、システムの同期(クロック)を一元化して再生するときや、本機を高精度な外部クロックで動作させるときに使用します。

WORDボタンを押すたびにオン(Word ON)とオフ(Word OFF)が切り換わります。

- 本機は以下のクロックに対応しており、入力された信号によって自動的に切り換わります。
44.1kHz、48kHz、88.2kHz、
96kHz、176.4kHz、192kHz
100kHz (ユニバーサルクロック)
- クロックの感知には数秒かかります。クロックを感知できない場合は「No Word!」を表示します。
- あらかじめWORD SYNC端子を接続しておいてください。

設定モード



- 1 停止中に本体のPLAY AREAボタンを2秒以上押し続ける。**

PLAY AREA



設定モードになり、ディスプレイに「WORD>***」が表示されます。

(***の部分は設定によって異なります)

以下の操作をすると、設定モードは解除されて通常が表示に戻ります。

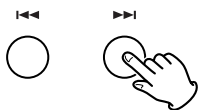
- ・ 10秒以上放置する。
- ・ もう一度PLAY AREAボタンを2秒押す。

- 2 PLAY AREAボタンをくり返し押し、変更する項目を選ぶ。**

PLAY AREA



PLAY AREAボタンを軽く押す度に、表示が変わります。

3 ◀◀/▶▶ ボタンを使って、設定を変更する。**4** PLAY AREA ボタンを2秒以上押し続けて、設定を終了する。

PLAY AREA



または、通常の表示になるまでPLAY AREA ボタンをくり返し押すか、10秒以上放置すれば通常の表示に戻ります。

- 設定を終了しないで電源を切ると、故障の原因になります。
- 設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

変更できる項目と設定**WORD**

ワードシンクのオンとオフを切り換えます。
リモコンのWORDボタンでも変更できます。詳しくは26ページをお読みください。

i (i.LINK)

i.LINK(AUDIO)端子から出力する信号の種類を切り換えます。「60958」、「PCM」または「OFF」を選んでください。

リモコンのi.LINKボタンでも変更できます。詳しくは28ページをお読みください。

DF (デジタルフィルター)

FIR型デジタルフィルターの特性を切り換えます。
「Wide」または「Narrow」を選んでください。

DSD

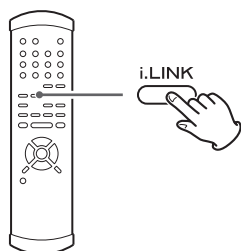
DSDをプロセッサー処理して出力する場合は「Normal」、プロセッサー処理せずに出力する場合は「Direct」を選んでください。

Directに設定すると、アナログの出力レベルがNormal時と比べて3dB下がります。

(通常の表示)

設定を終了します。

i.LINK (AUDIO)端子の設定



i.LINK (AUDIO)端子をアンプまたはD/Aコンバーターと接続している場合は、i.LINK (AUDIO)端子から出力する信号の種類を選ぶ必要があります。

i.LINKボタンを押すたびに、設定が切り換わります。

i.LINK端子を使用する場合、「60958」または「PCM」を選び、「デジタル出力」は「ON」に設定してください。

60958

スーパーオーディオCDの再生時はDSD信号が、DVDオーディオの再生時はリニアPCMデジタル信号が出力されます。

CDの再生時は、IEC60958フォーマットの信号が出力されます。

PCM

スーパーオーディオCDの再生時はDSD信号が、DVDオーディオの再生時はリニアPCMデジタル信号が出力されます。

CDの再生時は、リニアPCM信号フォーマットで出力されます。

- 本機のi.LINK端子をドルビーデジタル/DTS/MPEGのデコード機能のない機器(エソテリックのアンプAZ-1など)と接続した場合は、「PCM」に設定してください。
- AVアンプによっては、このモードの信号を入力したときに「DVD-Audio」と表示することがありますが、異常ではありません。

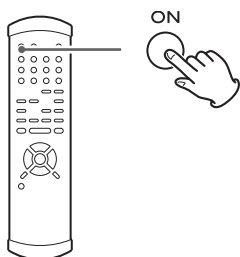
OFF

i.LINK端子から出力しません。i.LINK端子を使用しないときは、OFFにしてください。

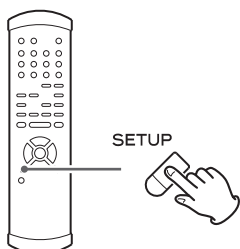
- DVDオーディオまたはスーパーオーディオCDを再生するときは、「60958」と「PCM」のどちらに設定しても同じ信号を出力します。
- DVDオーディオまたはスーパーオーディオCDのサラウンドの音声を出力するためには、「アナログ出力」を「Multi ch」に設定してください。「2ch」にした場合は、ダウンミックスされた音声が出力されます。(31ページ)
- 音声の出力に問題がある場合は、接続したアンプやD/Aコンバーターの取扱説明書で、対応しているフォーマットをご確認ください。
- i.LINK端子で接続された受信側の機器がフローレートコントロールに対応している場合は、受信側の機器をフローレートコントロールモードで動作させることができます。
- DVDビデオの再生時は、フローステータスは自動的にオフになります。

設定について

1 本体の電源を入れる。



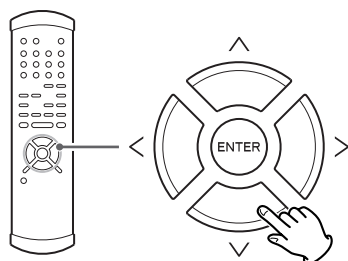
2 SETUPボタンを押す。



設定モードになり、ディスプレイに最初の項目 (AudioSetup)が表示されます。

- ディスクの再生中でも設定モードにできますが、変更できない項目があります。変更したい場合は再生を停止してください。
- 設定モードを中断する場合は、もう一度SETUPボタンを押してください。

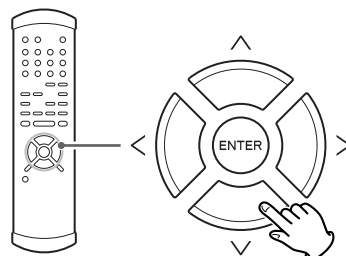
3 方向ボタンで設定する項目を選ぶ。



- 設定項目は何層にもなっていますので、次のページの表を参照して方向ボタンで選んでください。最下層の選択肢には、ディスプレイの表示の最初に「>」が付いています。

戻るときには、方向ボタン(左と上)を押すかわりに、RETURNボタンでも上位の項目に移動します。

4 方向ボタン(上下)で設定したい選択肢を選んでENTERボタンを押す。

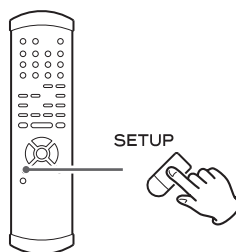


各設定内容については、31～34ページをお読みください。

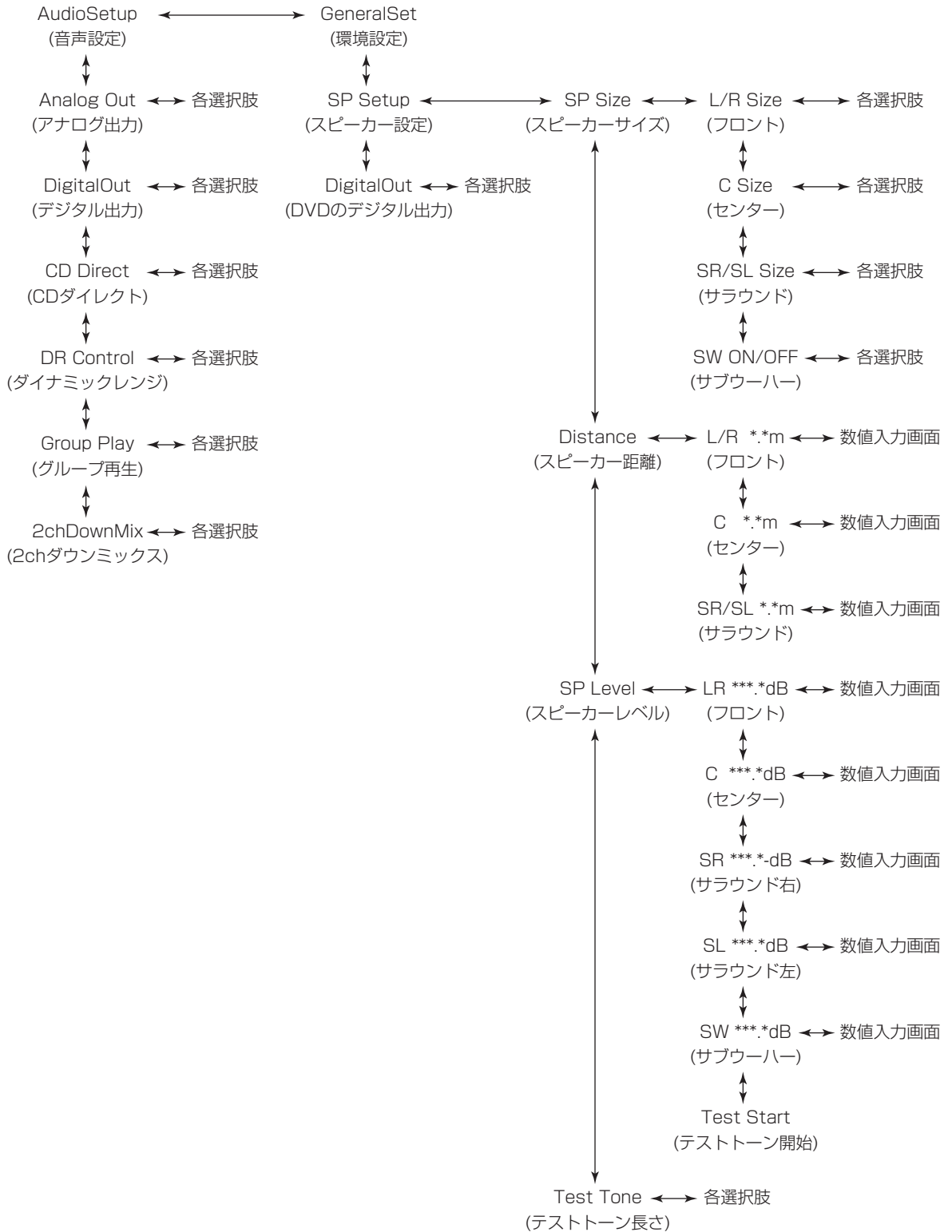
数値を設定する場合は、方向ボタン(上下)で変わります。(ENTERボタンを押す必要はありません)

複数の項目を設定する場合は、**3**～**4**の操作をくり返してください。

5 設定が終わったら、SETUPボタンを押して設定を終了する。



設定について



音声設定

アナログ出力 (Analog Out)

>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

2ch :

2ch/5.1chアナログ音声出力端子とi.LINK(AUDIO)端子から2チャンネルの音声を出力します。サラウンドの音声は、2チャンネルにダウンミックスして出力します。ダウンミックス中はDOWN MIXインジケーターが点灯します。

Multi ch :

5.1chアナログ音声出力端子またはi.LINK(AUDIO)端子にAVアンプを接続したときに選んでください。5.1チャンネルの独立した音声出力されます。

- 「Multi ch」に設定すると、2chアナログ音声出力端子からはフロントL/Rの音声だけが出力されます。
- DVDオーディオによっては、ダウンミックスが禁止されていることがあります。その場合は、「2ch」に設定してもダウンミックスできません。DOWN MIXインジケーターも点灯しません。
- 「スピーカー設定」を正しく行わないと、「Multi ch」に設定しても5.1チャンネルの音声は正しく出力されません。お使いのスピーカーシステムに合わせて設定を行ってください。(33ページ)
- 「2ch」と「Multi ch」を切り換えると、音量が変化します。

デジタル出力 (DigitalOut)

>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

ON :

デジタル出力端子とi.LINK(AUDIO)端子から音声を出力します。これらの端子に機器が接続されているときは、「ON」にしてください。

OFF :

デジタル出力端子とi.LINK(AUDIO)端子から音声を出力しません。これらの端子を使わないときは「OFF」にすると、アナログ音声出力端子の音質が良くなります。

- デジタル出力端子(COAXIALまたはOPTICAL)からは、スーパーオーディオCDのデジタル音声は出力できません。

CDダイレクト (CD Direct)

>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

Direct :

スピーカー設定などの回路をバイパスします。2チャンネルでお聴きになる場合などはこちらを選択してください。

Normal :

i.LINK(AUDIO)端子をアンプと接続し、本機でスピーカー設定をしてマルチチャンネルでお聴きになる場合などはこちらを選択してください。

DTS-CD(DTSデジタルサラウンド方式で記録されたCD)を再生する時にはこちらを選択してください。

ダイナミックレンジコントロール (DR Control)

>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

ON :

「ON」にすると、ドルビーデジタル対応のディスクを再生するときに、ダイナミックレンジ(大小の音量差)を小さくして音を抑えることができます。会話などの音声が聞きづらい場合や、夜間など音を控えめにしたいときに便利です。

OFF :

ダイナミックレンジコントロールを使わずにそのままの音で再生します。

- ダイナミックレンジコントロールの効果は、再生するディスク、お使いのスピーカーやアンプによって異なります。

音声設定

グループ再生 (Group Play)

DVDオーディオのグループの再生方法を切り換えます。>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

連続：

すべてのグループを続けて再生します。

単独：

選択したグループだけを再生します。

- 「単独」に設定した場合、早送りまたは頭出しで次のグループに移動することはできません。
- 「連続」に設定しても、ディスクメニューに移った場合は次のグループに移動することはできません。

2chダウンミックス (2chDownMix)

DVDビデオを2チャンネルにダウンミックスする方法を切り換えます。>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

Lo/Ro：

通常のステレオ音声にダウンミックスされます。ステレオなどで再生する場合はこちらを選んでください。

Lt/Rt：

ドルビーサラウンドと互換性のある2チャンネル音声としてエンコードされます。

- 2チャンネル/マルチチャンネルの切り換えは、「アナログ出力」の設定で行ってください。(31ページ)
- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの場合は、この設定は無視されて通常のステレオ音声(Lo/Ro)にダウンミックスされます。

スピーカー設定

5.1chアナログ音声出力端子またはi.LINK端子をAVアンプと接続し、本機でスピーカー設定してお聴きになる場合は、スピーカー設定を行ってください。

「5.1chアナログ音声出力端子またはi.LINK端子を使わない場合」、または「AVアンプ側でスピーカー設定する場合」は、本機で設定する必要はありません。本機のスピーカー設定は工場出荷時の状態にしておいてください。

- スピーカー設定は、「アナログ出力」の設定が「Multi ch」のときに、i.LINK端子とアナログ音声出力端子から出力される信号に反映されます。
- 以下の場合、「スピーカー設定」で設定した項目はすべて無視されます。
 - ・ 「アナログ出力」の設定が「2ch」のとき
 - ・ i.LINK端子を「60958」に設定してDVDビデオを再生した場合

スピーカーのサイズ設定 (SP Size)

フロントスピーカー(L/R)、センタースピーカー(C)、サラウンドスピーカー(SR/SL)、サブウーハー(SW)を別々に設定できます。

>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

Large :

低音まで再生できる大きいスピーカーを使う場合は、こちらを選択してください。

Small :

小さいスピーカーを使う場合はこちらを選択してください。「Small」に設定したチャンネルの低音はサブウーハーから出力されます。

OFF :

そのチャンネルのスピーカーを使わない場合、「OFF」を選択してください。

ON :

サブウーハーを使用する場合は「ON」を選んでください。

- L/Rは「OFF」にできません。
- フロントスピーカーの「Small」とサブウーハーの「OFF」は同時には選択できません。
- センタースピーカー(C)またはサラウンドスピーカー(SR/SL)が「OFF」の状態マルチチャンネルのディスクを再生すると、強制的にダウンミックスされます。(ダウンミックスが禁止されている場合を除く)
- ダウンミックスする場合は、ダウンミックスしないときと比べると音量が変化します。
- ダウンミックスによりサブウーハーとその他のスピーカーの音量が違って聞こえる場合は、「スピーカーのレベル調節」で調節するか、サブウーハー本体の音量で調節してください。

スピーカーの距離設定 (Distance)

同一サイズのスピーカーを視聴位置から等距離に配置するのが理想です。等距離に置けない場合、視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。

- スピーカーの距離設定は、スーパーオーディオCDおよびCDの再生時は無効になります。
- i.LINK端子の場合はi.LINKボタン(28ページ)で「PCM」を選び、DVDビデオまたはDVDオーディオを再生した場合のみ、有効です。

各項目の数値を方向ボタン(上下)で変更してください。工場出荷時は3mに設定されています。

L/R (フロントスピーカー) :

0.3m~9.0mの範囲で0.1m刻みで設定できます。

C (センタースピーカー) :

フロントスピーカーの設定より1.7m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。ただし、最小値は0mです。

SR/SL (サラウンドスピーカー) :

フロントスピーカーの設定より9m短い距離から、フロントスピーカーと同じ距離まで、0.1m刻みで設定できます。ただし、最小値は0mです。

- L/Rの設定値を変更すると、CとSR/SLの設定値も同時に変わります。L/Rを設定してからCとSR/SLを設定してください。
- L/Rの距離が設定範囲外のときは、CとL/R、SR/SLとL/Rの差が合うように数値を設定してください。

スピーカー設定

スピーカーのレベル調節 (SP Level)

各スピーカーのバランスを調節します。
各項目の数値を方向ボタン(上下)で変更してください。
各スピーカーとも、-12dB~0dBの範囲で0.5dB刻みで調節できます。

L/R : フロントスピーカー
C : センタースピーカー
SR : サラウンドスピーカー右
SL : サラウンドスピーカー左
SW : サブウーハー

Test Start (テストトーン開始) :

テストトーンを使うと、各スピーカーからの音を聴きながらレベルを調節できます。

1. 「Test Start」の項目を表示して、ENTERボタンを押します。
2. 音を聴きながら、方向ボタン(上下)で各スピーカーの項目に移動し、方向ボタン(右)を押します。
3. 方向ボタン(上下)で各項目の数値を調節してください。

- 上位の項目に移動すると、テストトーンは停止します。
- テストトーンの音量が小さくて聞こえない場合、または大きすぎる場合は、アンプ側で音量を調節してください。
- サブウーハーから出力されるテストトーンは、周波数帯域が低音のみなので、他のスピーカーから出力される音よりも小さく聞こえます。サブウーハーのレベルは、テストトーンではなく、低音(サブウーハーチャンネル)の入った聴き慣れたソースを再生して確認してください。
- i.LINKの設定が「60958」のときはテストトーンを出力しません。「PCM」を選んでください。(28ページ)
- スーパーオーディオCDがセットされているとき(またはセットされていたとき)は、テストトーンを出力しません。ディスクを抜いて、一度電源を入れ直してから操作してください。

テストトーンの長さ (Test tone)

レベル調節のときに出力するテストトーンの長さを変えることができます。方向ボタンでお好みの長さを選んでENTERボタンを押してください。
>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

2sec(2秒)、5sec(5秒)、10sec(10秒)から選ぶことができます。

デジタル出力の設定

DVDのデジタル出力 (DigitalOut)

デジタル出力端子(COAXIAL/OPTICAL)から出力するDVDのデジタル音声の出力方法を選びます。i.LINKボタンで「60958」を選んだ場合は、i.LINK端子からもここで選んだ方法で出力します。
>のついた項目を方向ボタン(上下)で変更して、ENTERボタンを押してください。

接続した機器がドルビーデジタル/DTS/MPEGに対応していない場合、「PCM」を選んでください。

Dolby D (ドルビーデジタル)

Stream :

ドルビーデジタル信号をそのまま出力します。
ドルビーデジタル対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM :

ドルビーデジタル信号をPCMに変換して出力します。
本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。
(PCM : CDなどで使用される一般的なデジタル音声)

DTS

Stream :

DTS信号をそのまま出力します。
DTS対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM :

DTS信号をPCMに変換して出力します。
本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。

- DTSに対応していない機器と接続しているときは「ストリーム」に設定しないでください。ノイズが発生することがあります。

出荷時の状態に戻すには

Mpeg-Audio

Stream :

MPEG信号をそのまま出力します。MPEG対応のアンプと接続し、アンプ側でデコードするときに選んでください。

PCM :

MPEG信号をPCMに変換して出力します。5.1チャンネルの信号は自動的にダウンミックスされます。本機と接続したCDレコーダーやMDデッキでデジタル録音するときに選んでください。

DownSample (ダウンサンプリング)

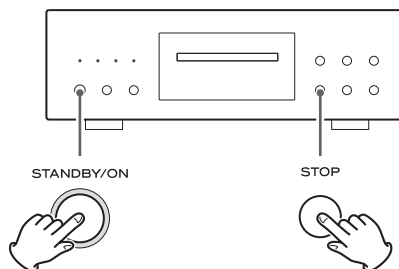
ON :

デジタル音声を48kHz/44.1kHzにダウンサンプルして出力します。96kHz/88.2kHzに対応していないアンプと接続したときに選んでください。

OFF :

96kHz/88.2kHz対応のアンプまたはDACと接続したときに選んでください。

- デジタル出力端子(COAXIAL/OPTICAL)の場合は、ダウンサンプリングを「OFF」に設定しても、ディスクによっては強制的に48kHz/44.1kHzに変換されたり、デジタル出力されないことがあります。また、DVDオーディオの192/176.4kHzの信号は、ダウンサンプリングを「OFF」に設定しても、強制的に96/88.2kHzにダウンサンプルされます。



設定した内容は、電源プラグを抜いた状態で放置しても半永久的に保持されます。

以下の操作をすると、設定した内容を工場出荷時の状態に戻し、すべてのメモリーを消去します。

1. 電源をオフにする。

電源がオンだった場合は、STANDBY/ONボタンを押して電源をオフにしてから30秒以上待ってください。

2. STOPボタンを押しながらSTANDBY/ONボタンを押す。

ディスプレイに「Setup CLR (設定消去)」が表示されたらSTOPボタンから指を離してください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器の使用方法も合わせてご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

電源が入らない。

- ➔ 電源プラグをコンセントに差し込んでください。
- ➔ 本体のSTANDBY/ONボタン(またはリモコンのONボタン)を押して、電源をオンにしてください。(18ページ)

リモコンで操作できない。

- ➔ 本体のSTANDBY/ONボタン(またはリモコンのONボタン)を押して、電源をオンにしてください。(18ページ)
- ➔ 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。(17ページ)
- ➔ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から7メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。(17ページ)

テレビなどが誤動作する。

- ➔ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。

再生できない。

- ➔ ディスクを正しくセットしてください。ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
- ➔ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。(7ページ)
- ➔ DVDビデオの場合、本機ではリージョンNo.2またはそれを含むディスクしか再生できません。(7ページ)
- ➔ 本機の内部が結露している場合は、電源を入れて1、2時間放置してください。(37ページ)

ボタンを押しても反応しない。

- ➔ 続けてボタンを押すと、機械側が対応できないことがあります。ボタンを押すときは、機械が反応するまで少しお待ちください。
- ➔ DVDビデオの冒頭部分(製作会社のロゴや注意事項など)の再生中は、スキップなどの操作を受け付けないことがあります。しばらくお待ちください。
ディスクによっては、冒頭部分の再生中(本体ディスプレイに「MENU」が表示されているとき)にSTOPボタンを押してからPLAYボタンを押すと、本編の再生が始まる場合があります。

設定できない項目がある。

- ➔ 再生中は変更できない項目があります。STOPボタンを押して、再生を停止してください。DVDビデオの場合、リジューム機能が働いているときは、もう一度STOPボタンを押して完全に停止させてください。(19ページ)

早送り/早戻しなどが途中で止まってしまう。

- ➔ DVDでは、メニュー画面に移ると早送り/早戻しなどが止まってしまいます。

雑音がする。

- ➔ テレビなど強い磁気を帯びたものからはできるだけ離して設置してください。

スピーカーから音が出ない。音が歪む。

- ➔ アンプ、スピーカーとの接続を確認してください。(10ページ)
- ➔ アンプなどの音量を調節してください。
- ➔ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
- ➔ 音声出力の設定を確認してください。(31ページ)
- ➔ デジタル出力端子またはi.LINK端子と接続しているときは、「デジタル出力」を「ON」にしてください。(31ページ)
- ➔ 一時停止中は音が出ません。再生ボタンを押して通常の再生に戻してください。

スピーカーから5.1チャンネルの音声が出力されない。

- ➔ 「アナログ出力」を「Multi ch」にしてください。(31ページ)
- ➔ お使いのスピーカーに合わせて「スピーカー設定」を行ってください。(33ページ)
- ➔ デジタル音声をAVサラウンドアンプでデコードしている場合は、「DVDのデジタル出力」を「Stream」にしてください。(34ページ)。
- ➔ スーパーオーディオCDやDVDオーディオでは、2チャンネルとサラウンドの両方の音声を収録しているものがあります。グループまたは再生エリアを切り換えてサラウンドの音声を選んでください。(21、22ページ)

音量が小さい。

各スピーカーからの音量バランスがおかしい。

- 「スピーカーのレベル調節」で各スピーカーの出力レベルを調節してください。(34ページ)
- ダウンミックスが働いているときは、ダウンミックスされない場合と較べて音量が変化します。その場合は、アンプ側で音量を調節してください。
- 「スピーカーのサイズ設定」で、サブウーハー以外で「OFF」や「Small」を選んだものがある場合、サブウーハーの音量が変化します。その場合は、サブウーハー本体の音量を調節してください。

デジタル音声を出力できない。

- 「デジタル出力」を「ON」にしてください。(31ページ)
- デジタル音声出力端子からは、スーパーオーディオCDのデジタル音声を出力できません。i.LINK(AUDIO)端子をお使いください。
- DVDオーディオの中にはデジタル音声を出力できないディスクがあります。

外部接続した機器でデジタル録音できない。

- 「アナログ出力」を「2ch」にし、「DVDのデジタル出力」を「PCM」にしてください。(31、34ページ)
- コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することはできません。(6ページ)

DTS音声がでない。

- DTSに対応していないアンプにデジタル接続してお聴きになる場合は、「DVDのデジタル出力」の「DTS」を「PCM」にしてください。(34ページ)
または、AUDIOボタンを押して他の音声を選んでください。(23ページ)
- DTS CDを再生する場合は、「CDダイレクト」を「Normal」にしてください。(31ページ)
- アンプ側の設定を確認してください。

96/88.2kHz音声をデジタル出力できない。

- 「DVDのデジタル出力」の「ダウンサンプリング」を「OFF」にしてください。(34ページ)
- 著作権保護がされているディスクでは96/88.2kHz音声のデジタル出力が禁止されています。

DVD、CD、スーパーオーディオCDで音量差を感じる。

- DVD、CD、スーパーオーディオCDで音量差を感じることはありますが、これはディスクの記録方式の違いによるものです。

「No Word!」が表示される。

- ワードクロックが入力されていません。外部マスタークロックジェネレーターとの接続、マスタークロックジェネレーターの電源や出力状態を確認してください。
- ワードクロックが入力されていない時は、ワードシンクはオフにしてください。(26ページ)

「WRD UNLCK!」が表示される。

- 同期できない信号が入力されている可能性があります。ワードシンク端子の接続や、接続している機器の設定を確認してください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

結露現象について

本機を寒い戸外から暖かい室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、動作部やレンズに水滴がついて正常に動作しないことがあります。この場合は、電源を入れて1～2時間そのまま放置してください。正常に再生できるようになります。

仕 様

再生可能ディスク

DVDオーディオ、スーパーオーディオCD、CD、
DVDビデオ(音声のみ)

アナログ音声出力

端子 XLR端子(2ch)×1
RCA端子(2ch)×1
RCA端子(5.1ch)×1

最大出力レベル (1kHz、フルスケール)
XLR : 2.2 Vrms±0.1V/10kΩ
RCA : 2.2 Vrms±0.1V/10kΩ

周波数特性 5Hz~88kHz (DVDオーディオ)
S/N比 130dB
ダイナミックレンジ 107dB
歪率 0.002%

デコード可能フォーマット

DTS、DTS 96/24、ドルビーデジタル、
PCM 44.1kHz~192kHz/16~24bit、DSD

デジタル音声出力

光デジタル出力 . . 光デジタル端子×1、-15~-21dBm
同軸デジタル出力 RCA端子×1、0.5 Vp-p/75Ω
i.LINK(AUDIO)端子×1

ワードシンク入力フォーマット

端子 BNC
入力可能周波数 (矩形波)
44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、100kHz、
176.4kHz、192kHz
入力レベル TTLレベル相当/75Ω

一般

電源 100V AC 50-60Hz
消費電力 23W (スタンバイ時 : 2W)
外形寸法 442mm x 149mm x 353mm
(WxHxD、突起部を含む)

質量 14kg
許容動作温度 +5℃~+35℃
許容動作湿度 5%~85%(結露のないこと)
許容保管温度 -20℃~+55℃

付属品

電源コード×1
リモコン(RC-1089)×1
リモコン用乾電池(単3)×2本
フェルト×3枚
取扱説明書×1
ご愛用者カード×1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■保証書

保証書はご愛用者カードと引き換えに発行いたします。添付のご愛用者カードに必要事項を御記入の上、速やかにお送りください。保証書が届きましたら、保証内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から一年です。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、弊社サービス部門が無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、保証書をご提示の上、弊社サービス部門またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前に弊社サービス部門にお問い合わせください。なお、離島および離島に準じる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社サービス部門にご連絡ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - メンテナンス
 - 保証書の提示がない場合
 - 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

36、37ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または弊社サービス部門にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：ユニバーサルオーディオプレーヤー SA-60

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況(できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じてても、当社は一切の責任を負いません。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



株式会社ティアック エソテリック カンパニー

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

<http://www.teac.co.jp/av>

この製品のお取り扱い等に関するお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室



0570-000-701

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

電話：0422-52-5091 / FAX：0422-52-5194

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。